

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

マイナートランクライザー

アルプラゾラム錠 0.4mg/0.8mg「トーフ」

ALPRAZOLAM TABLETS 0.4 mg “TOWA” / TABLETS 0.8 mg “TOWA”

《アルプラゾラム錠》

製 品 名	アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーフ」	アルプラゾラム錠 0.8mg 「トーフ」
剤 形	素錠	
製 剤 の 規 制 区 分	向精神薬、処方箋医薬品 ^{注1)} 注1) 注意－医師等の処方箋により使用すること	
規 格 ・ 含 量	1錠中 日局 アルプラゾラ ム 0.4mg 含有	1錠中 日局 アルプラゾラ ム 0.8mg 含有
一 般 名	和 名：アルプラゾラム (JAN) 洋 名：Alprazolam (JAN)	
製 造 販 売 承 認 年 月 日	2008年 3月 13日	2010年 7月 15日
薬 価 基 準 収 載 年 月 日	2008年 6月 20日	2010年 11月 19日
発 売 年 月 日	1996年 7月 5日	2010年 11月 19日
開 発 ・ 製 造 販 売 (輸 入) ・ 提 携 ・ 販 売 会 社 名	製造販売元：東和薬品株式会社	
医 薬 情 報 担 当 者 の 連 絡 先	電話番号： FAX：	
問 い 合 わ せ 窓 口	東和薬品株式会社 学術部 DI センター  0120-108-932 FAX 06-7177-7379 https://med.towayakuhin.co.jp/medical/	

本IFは2020年10月改訂(第16版、相互作用の項等)の添付文書の記載に基づき作成した。
最新の添付文書情報は医薬品医療機器情報提供ホームページ
<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 — 日本病院薬剤師会 —

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IF と略す)の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を保管する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF記載要領 2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領 2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	22
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	22
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	22
II. 名称に関する項目	2	3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	22
1. 販売名	2	4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	22
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	22
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	22
4. 分子式及び分子量	3	7. 相互作用	23
5. 化学名(命名法)	3	8. 副作用	24
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	9. 高齢者への投与	25
7. CAS登録番号	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	26
III. 有効成分に関する項目	4	11. 小児等への投与	26
1. 物理化学的性質	4	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	26
2. 有効成分の各種条件下における安定性	5	13. 過量投与	26
3. 有効成分の確認試験法	5	14. 適用上の注意	26
4. 有効成分の定量法	5	15. その他の注意	27
IV. 製剤に関する項目	6	16. その他	27
1. 剤形	6	IX. 非臨床試験に関する項目	28
2. 製剤の組成	6	1. 薬理試験	28
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	7	2. 毒性試験	28
4. 製剤の各種条件下における安定性	7	X. 管理的事項に関する項目	29
5. 調製法及び溶解後の安定性	10	1. 規制区分	29
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	10	2. 有効期間又は使用期限	29
7. 溶出性	10	3. 貯法・保存条件	29
8. 生物学的試験法	14	4. 薬剤取扱い上の注意点	29
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	14	5. 承認条件等	29
10. 製剤中の有効成分の定量法	14	6. 包装	29
11. 力価	14	7. 容器の材質	30
12. 混入する可能性のある夾雑物	14	8. 同一成分・同効薬	30
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	14	9. 国際誕生年月日	30
14. その他	14	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	30
V. 治療に関する項目	15	11. 薬価基準収載年月日	30
1. 効能・効果	15	12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	30
2. 用法・用量	15	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	30
3. 臨床成績	15	14. 再審査期間	31
VI. 薬効薬理に関する項目	17	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	31
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	17	16. 各種コード	31
2. 薬理作用	17	17. 保険給付上の注意	31
VII. 薬物動態に関する項目	18	XI. 文 献	32
1. 血中濃度の推移・測定法	18	1. 引用文献	32
2. 薬物速度論的パラメータ	20	2. その他の参考文献	32
3. 吸収	20	XII. 参考資料	32
4. 分布	20	1. 主な外国での発売状況	32
5. 代謝	21	2. 海外における臨床支援情報	32
6. 排泄	21	XIII. 備 考	33
7. トランスポーターに関する情報	21	その他の関連資料	33
8. 透析等による除去率	21		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

アルプラゾラム錠は、マイナートランキライザーであり、本邦では 1984 年に上市されている。東和薬品株式会社が後発医薬品として、メンビット錠 0.4 の開発を企画し、薬発第 698 号(昭和 55 年 5 月 30 日)に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、1996 年 3 月に承認を取得、1996 年 7 月に発売した。

その後、医療事故防止のため、2008 年 6 月にアルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」と販売名の変更を行い、現在に至る。

また、アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」は、「後発医薬品の必要な規格を揃えること等について」(医政発第 0310001 号 平成 18 年 3 月 10 日)に基づき、開発を企画し、2010 年 7 月に承認を取得、2010 年 11 月に発売した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

臨床的特性

有用性：アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」及びアルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」は、心身症(胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、自律神経失調症)における身体症候ならびに不安・緊張・抑うつ・睡眠障害に対して、通常、成人にはアルプラゾラムとして 1 日 1.2mg を 3 回に分けて経口投与することにより有用性が認められている。

安全性：本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用として、眠気等が報告されている。[Ⅷ.8.(3)その他の副作用の項参照]

重大な副作用として、薬物依存を生じることがある。離脱症状、刺激興奮、錯乱、呼吸抑制、肝機能障害、黄疸があらわれることがある。アナフィラキシーがあらわれたとの報告がある。

[Ⅷ.8.(2)重大な副作用と初期症状の項参照]

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

アルプラゾラム錠 0.4 mg 「トーワ」
アルプラゾラム錠 0.8 mg 「トーワ」

(2) 洋名

ALPRAZOLAM TABLETS 0.4 mg “TOWA”
ALPRAZOLAM TABLETS 0.8 mg “TOWA”

(3) 名称の由来

一般名＋剤形＋規格(含量)＋「トーワ」

〔「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成 17 年 9 月 22 日 薬食審査発第 0922001 号)に基づく〕

2. 一般名

(1) 和名(命名法)

アルプラゾラム(JAN)

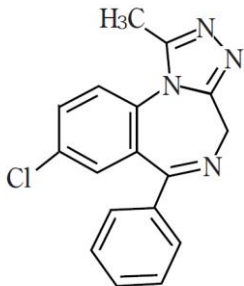
(2) 洋名(命名法)

Alprazolam(JAN、INN)

(3) ステム

-azolam : -azepam とほぼ同じ作用をもつトランキライザー

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : C₁₇H₁₃ClN₄

分子量 : 308.76

5. 化学名 (命名法)

8-Chloro-1-methyl-6-phenyl-4*H*[1,2,4]triazolo[4,3-*a*][1,4]benzodiazepine (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

該当しない

7. CAS登録番号

28981-97-7

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

白色の結晶又は結晶性の粉末である。本品は無臭である。

(2) 溶解性

溶 媒	1g を溶かすのに要する溶媒量	溶 解 性
クロロホルム	1mL 以上 10mL 未満	溶けやすい
メタノール	10mL 以上 30mL 未満	やや溶けやすい
エタノール(95)	10mL 以上 30mL 未満	やや溶けやすい
無水酢酸	30mL 以上 100mL 未満	やや溶けにくい
水	10000mL 以上	ほとんど溶けない

エタノール(99.5)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルに極めて溶けにくい。

本品は希硝酸に溶ける。

(3) 吸 湿 性

該当資料なし

(4) 融点(分解点)・沸点・凝固点

融点：228～232℃

(5) 酸塩基解離定数

pKa：2.6(トリアゾロベンゾジアゼピン環(2位 N)、吸光度法)

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

pH1.2、pH2.0、 pK_a 付近及び pH5.0 において、37°C、24 時間で、それぞれ約 91.5%、約 85%、約 80%及び約 2%分解する。

pH6.0～9.0 において、37°C、24 時間は安定である。

3. 有効成分の確認試験法

日局「アルプラゾラム」の確認試験による







4. 有効成分の定量法

日局「アルプラゾラム」の定量法による

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、外観及び性状

製品名		アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」			アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」		
剤形の区別		素錠					
性状		白色の素錠					
識別コード	本体	Tw103			Tw149		
	包装						
外形		表 	裏 	側面 	表 	裏 	側面 
錠径(mm)		6.5			7.0		
厚さ(mm)		2.5			2.7		
質量(mg)		110			135		

(2) 製剤の物性

製品名	アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」	アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」
硬度	57N(5.8kg 重)	44N(4.5kg 重)

(3) 識別コード

(1) 剤形の区別、外観及び性状の項を参照

(4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定な pH 域等
該当しない

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」

1錠中 日局 アルプラゾラム 0.4mg を含有する。

アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」

1錠中 日局 アルプラゾラム 0.8mg を含有する。

(2) 添加物

アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーワ」

使用目的	添加物
賦形剤	乳糖水和物、トウモロコシデンプン
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
滑沢剤	ステアリン酸 Mg

アルプラゾラム錠 0.8mg 「トーワ」

使用目的	添加物
賦形剤	乳糖水和物
崩壊剤	トウモロコシデンプン
結合剤	ヒドロキシプロピルセルロース
滑沢剤	ステアリン酸 Mg

(3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

4. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 加速試験

アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーワ」¹⁾

包装形態：PTP 包装した製品

試験条件：40℃、75%RH、3ロット(n=3)

試験項目	開始時	6箇月
性状	白色の素錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
崩壊時間(分)	14.7~18.4	14.6~15.1
含量(%)	99.8~103.1	100.6~102.0

包装形態：ポリエチレン瓶に入れた製品

試験条件：40℃、75%RH、3ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 箇月
性状	白色の素錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
崩壊時間(分)	14.7~18.4	14.6~15.3
含量(%)	99.8~103.1	99.9~102.0

アルプラゾラム錠 0.8mg 「トーワ」²⁾

包装形態：PTP 包装した製品

試験条件：40℃、75%RH、3ロット(n=3)

試験項目	開始時	6 箇月
性状	白色の割線入り素錠	同左
確認試験	適合	同左
製剤均一性	適合	同左
溶出率(%)	85.3~100.7	86.3~98.1
含量(%)	98.1~103.4	97.5~99.7

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度 75%、6 箇月)の結果、アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーワ」及びアルプラゾラム錠 0.8mg 「トーワ」は通常の市場流通下においてそれぞれ 3 年間安定であることが推測された。

(2) 長期保存試験

アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーワ」³⁾

包装形態：PTP 包装した製品

試験条件：室温保存、3ロット(n=1)

試験項目	開始時	3 年
性状	白色の素錠	同左
溶出率(%)	93.2~96.6	91.6~97.9
含量(%)	96.4~97.1	95.2~95.8

包装形態：ポリエチレン容器に入れた製品

試験条件：室温保存、1ロット(n=1)

試験項目	開始時	3年
性状	白色の素錠	同左
溶出率(%)	94.9~100.0	96.1~98.4
含量(%)	99.6	97.0

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温保存、3年)の結果、アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

(3) 無包装状態における安定性

アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」⁴⁾

試験項目	開始時	温度 (40℃、3箇月)	湿度 (25℃、75%RH、3箇月)	光 (60万lx・hr)
外観	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
含量	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
硬度	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
溶出性	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし

注)「(社)日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)、平成11年8月20日」に準じて試験を実施した。

アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」⁵⁾

試験項目	開始時	温度 (40℃、3箇月)		湿度 (25℃、75%RH、3箇月)		光 (60万lx・hr)
		1箇月	3箇月	1箇月	3箇月	
外観	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
含量	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
硬度	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
溶出性	問題なし	問題なし	溶出性が 低下した	溶出性が 低下した	溶出性が 低下した	問題なし

注)「(社)日本病院薬剤師会：錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性試験法について(答申)、平成11年8月20日」に準じて試験を実施した。

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

該当しない

7. 溶出性

(1) 規格及び試験方法⁶⁾⁷⁾

アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」及びアルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められたアルプラゾラム錠の溶出規格にそれぞれ適合していることが確認されている。

方 法：日局溶出試験法(パドル法)

試験液：水 900mL

回転数：50rpm

測定法：液体クロマトグラフィー

規 格：45 分間の溶出率が 85%以上のときは適合とする。

〔出典：日本薬局方外医薬品規格第 3 部〕

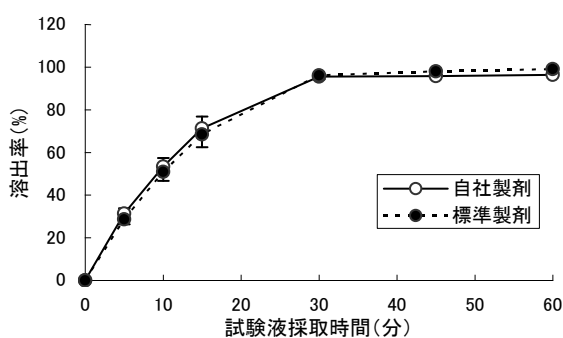
(2) 品質再評価

アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」⁸⁾

アルプラゾラム錠0.4mg「トーワ」につき、標準製剤を用いて、品質再評価(第12次)で指定された下記4種の試験液を用いて溶出試験を行った。

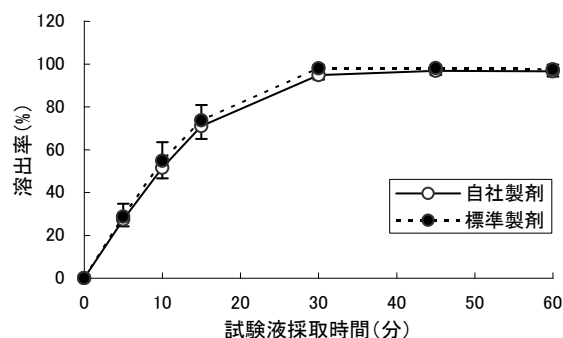
名称	販売名	アルプラゾラム錠0.4mg「トーワ」		
	有効成分名	アルプラゾラム		
	剤形	錠剤	含量	0.4mg
溶出試験条件	回転数	50rpm		
	界面活性剤	無し		
	試験液	① pH1.2 : 日本薬局方崩壊試験の第1液 ② pH4.0 : 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液(0.05mol/L) ③ pH6.8 : 日本薬局方試薬・試液のリン酸塩緩衝液(1→2) ④ 水 : 日本薬局方精製水		

① pH1.2



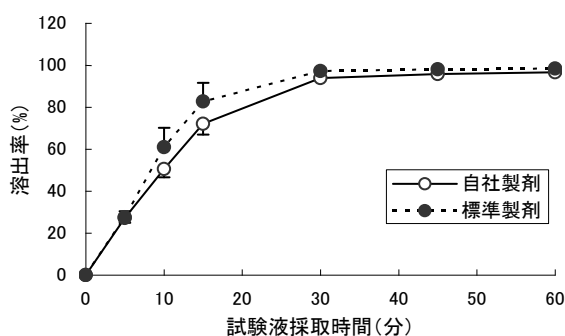
pH1.2	0分	5分	10分	15分	30分	45分	60分
自社製剤	0	31.4	53.4	71.3	95.5	95.7	96.3
標準製剤	0	28.6	50.9	68.4	96.1	98.0	99.0

② pH4.0



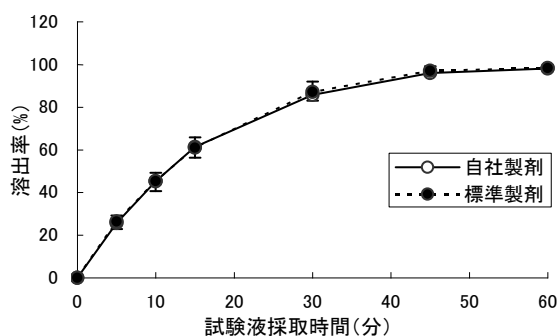
pH4.0	0分	5分	10分	15分	30分	45分	60分
自社製剤	0	27.3	51.5	71.0	94.8	96.8	96.6
標準製剤	0	28.7	54.8	73.6	98.0	98.1	97.4

③ pH6.8



pH6.8	0分	5分	10分	15分	30分	45分	60分
自社製剤	0	27.1	50.6	72.1	94.0	95.8	96.6
標準製剤	0	27.6	60.9	82.7	97.2	98.1	98.5

④ 水



水	0分	5分	10分	15分	30分	45分	60分
自社製剤	0	25.7	45.3	61.4	85.7	96.0	98.1
標準製剤	0	26.4	45.4	61.0	87.1	97.1	98.3

後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドラインに従い、自社製剤と標準製剤の4種の試験液における溶出挙動の同等性を判定した結果、自社製剤と標準製剤は同等であると判定された。

(3) 生物学的同等性試験

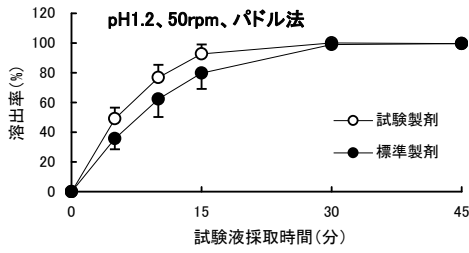
アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」⁹⁾

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン等の一部改正について」(平成18年11月24日薬食審査発第1124004号)(以下、ガイドライン)に従い、溶出試験を行った。

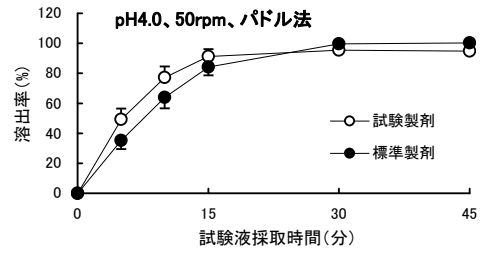
<測定条件>

試験液 : pH1.2、pH4.0、pH6.8、水
 回転数 : 50rpm、100rpm
 試験製剤 : アルプラゾラム錠0.8mg「トーワ」

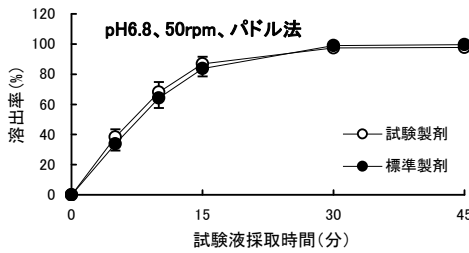
検体数 : n=12
 試験法 : パドル法
 標準製剤 : 錠剤、0.8mg



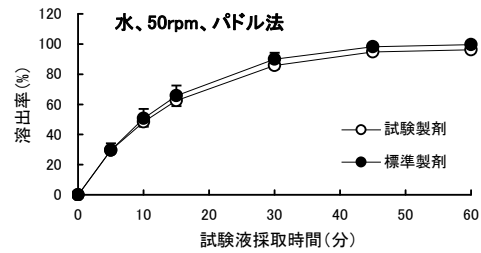
時間(分)	0	5	10	15	30	45
試験製剤	0	49.1	76.8	92.7	100.2	99.7
標準製剤	0	7.5	8.5	6.3	1.9	2.1
標準製剤	0	35.7	62.3	79.8	99.1	99.7
標準偏差	0	7.2	12.1	10.7	1.0	0.7



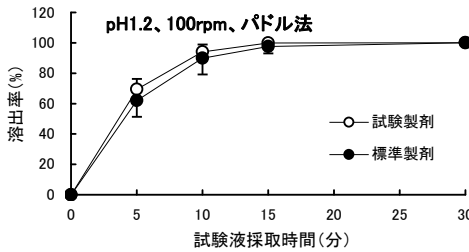
時間(分)	0	5	10	15	30	45
試験製剤	0	49.3	77.3	91.3	95.5	94.9
標準製剤	0	7.2	7.3	4.8	2.7	2.0
標準製剤	0	35.3	64.0	84.3	99.7	100.3
標準偏差	0	5.8	7.4	5.7	1.1	1.0



時間(分)	0	5	10	15	30	45
試験製剤	0	38.3	68.2	86.9	97.5	97.8
標準製剤	0	5.2	6.6	4.7	1.6	1.9
標準製剤	0	33.9	64.2	83.9	99.1	99.6
標準偏差	0	4.5	6.6	5.4	0.5	0.5



時間(分)	0	5	10	15	30	45	60
試験製剤	0	29.7	48.4	62.5	85.9	94.9	96.2
標準製剤	0	2.2	3.2	3.6	2.4	1.6	1.0
標準製剤	0	29.6	50.8	65.8	90.0	98.2	99.6
標準偏差	0	4.5	6.1	6.7	4.2	1.0	0.7



時間(分)	0	5	10	15	30
試験製剤	0	69.4	94.1	99.9	100.2
標準製剤	0	6.9	4.8	1.8	1.6
標準製剤	0	62.1	89.9	97.7	100.2
標準偏差	0	10.8	10.7	4.7	0.7

試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較(パドル法)

試験条件			平均溶出率 (%)		平均溶出率の差 (%)	判定
回転数	試験液	採取時間	標準製剤 (錠剤、0.8mg)	アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」		
50rpm	pH1.2	10分	62.3	76.8	14.5	適
		15分	79.8	92.7	12.9	
	pH4.0	10分	64.0	77.3	13.3	適
		15分	84.3	91.3	7.0	
	pH6.8	10分	64.2	68.2	4.0	適
		15分	83.9	86.9	3.0	
	水	15分	65.8	62.5	-3.3	適
		30分	90.0	85.9	-4.1	
100rpm	pH1.2	15分	97.7	99.9	2.2	適

(n=12)

判定基準

[pH1.2、pH4.0、pH6.8、水(各 50rpm)]

標準製剤が 15 分～30 分に平均 85%以上溶出する場合：標準製剤の平均溶出率が 60%及び 85% 付近の適当な 2 時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又は f_2 関数の値は 42 以上である。

[pH1.2(100rpm)]

標準製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出する場合：試験製剤が 15 分以内に平均 85%以上溶出するか、又は 15 分における試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

上記の結果より、試験条件それぞれについて、ガイドラインの溶出挙動の類似性の判定基準に適合した。

従って、アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」と、標準製剤の溶出挙動は類似していると判断した。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

- (1) 紫外線照射による蛍光反応
- (2) 紫外可視吸光度測定法
- (3) 薄層クロマトグラフィー

10. 製剤中の有効成分の定量法

液体クロマトグラフィー

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能・効果

心身症（胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、自律神経失調症）における身体症候並びに不安・緊張・抑うつ・睡眠障害

2. 用法・用量

通常、成人にはアルプラザラムとして1日1.2 mgを3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。増量する場合には、最高用量を1日2.4 mgとして漸次増量し、3～4回に分けて経口投与する。

高齢者では、1回0.4 mgの1日1～2回投与から開始し、増量する場合でも1日1.2 mgを超えないものとする。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

- 1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

- 2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

ベンゾジアゼピン系化合物

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序¹⁰⁾

ベンゾジアゼピン系薬物としての共通の作用機序により鎮静、抗不安、催眠、などの作用を現す。すなわち、GABA_A受容体のサブユニットに存在するベンゾジアゼピン結合部位に結合することにより、抑制性伝達物質 GABA の受容体親和性を高め、Cl⁻チャネル開口作用を増強して神経機能抑制作用を促進する。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

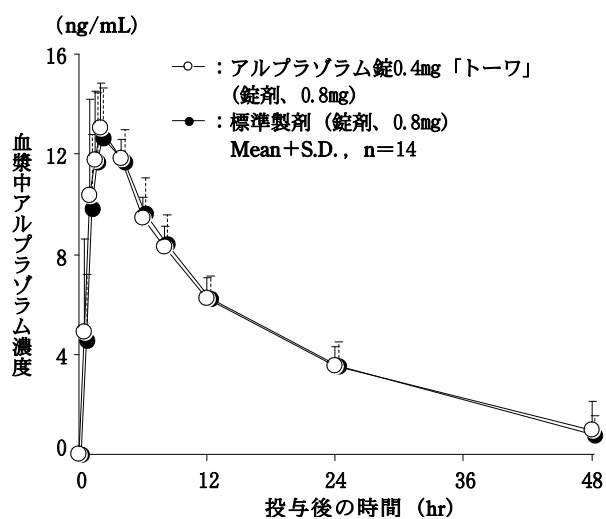
(3) 臨床試験で確認された血中濃度の項を参照

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

生物学的同等性試験

1) アルプラゾラム錠 0.4 mg 「トーワ」¹¹⁾

アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ2錠(アルプラゾラムとして0.8mg)健康成人男子(n=14)に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された(昭和55年5月30日薬審第718号に基づく)。



薬物動態パラメータ

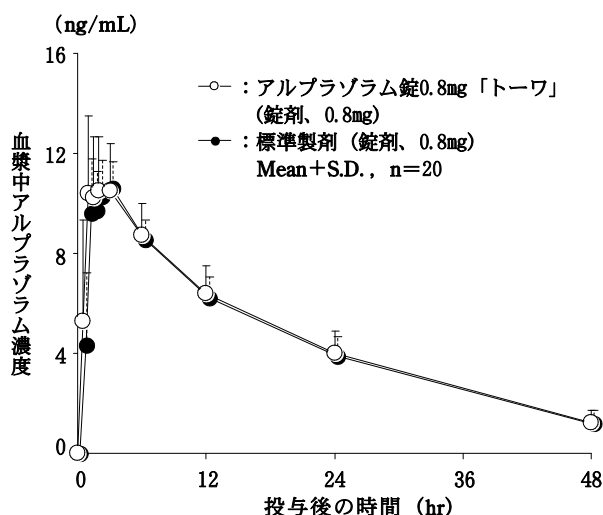
	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₄₈ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」 (錠剤、0.8mg)	221.19 ± 36.88	13.62 ± 1.32	1.89 ± 0.74	15.59 ± 7.41
標準製剤 (錠剤、0.8mg)	219.77 ± 34.63	13.30 ± 2.12	2.14 ± 0.82	13.53 ± 3.75

(Mean ± S.D., n=14)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

2) アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」¹²⁾

アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠 (アルプラゾラムとして 0.8mg) 健康成人男子 (n=20) に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ (AUC、Cmax) について 90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。



薬物動態パラメータ

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC ₄₈ (ng·hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)
アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」 (錠剤、0.8mg)	224.771 ± 41.519	11.656 ± 2.266	1.75 ± 1.32	14.94 ± 2.81
標準製剤 (錠剤、0.8mg)	219.383 ± 30.976	11.026 ± 1.309	2.43 ± 1.23	14.83 ± 2.72

(Mean ± S. D., n=20)

血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

-
- (6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因
該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数¹²⁾

アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」

kel : $0.048 \pm 0.009 \text{hr}^{-1}$ (絶食経口投与)

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率¹⁰⁾

68.4%

3. 吸 収

該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

VIII. 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与の項 1)~3)を参照

(3) 乳汁への移行性

VIII. 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与の項 4)を参照

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代 謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種

本剤は肝薬物代謝酵素チトクローム P450 3A で代謝される。

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排 泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2) 急性閉塞隅角緑内障の患者 [抗コリン作用により眼圧が上昇し、症状を悪化させることがある。]
- 3) 重症筋無力症の患者 [筋弛緩作用により症状が悪化するおそれがある。]
- 4) HIV プロテアーゼ阻害剤(インジナビル等)を投与中の患者(「相互作用」の項参照)

3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- 1) 心障害のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]
- 2) 肝障害のある患者 [肝臓で代謝されるため、クリアランスが低下するおそれがある。]
- 3) 腎障害のある患者 [排泄が遅延するおそれがある。]
- 4) 脳に器質的障害のある患者 [作用が強くあらわれる。]
- 5) 小児(「小児等への投与」の項参照)
- 6) 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)
- 7) 衰弱患者 [作用が強くあらわれる。]
- 8) 中等度呼吸障害又は重篤な呼吸障害(呼吸不全)のある患者 [症状が悪化するおそれがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

重要な基本的注意

- 1) 眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。
- 2) 連用により薬物依存を生じることがあるので、漫然とした継続投与による長期使用を避けること。本剤の投与を継続する場合には、治療上の必要性を十分に検討すること。(「重大な副作用」の項参照)

7. 相互作用

本剤は肝薬物代謝酵素チトクローム P450 3A で代謝される。

(1) 併用禁忌とその理由

併用禁忌（併用しないこと）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
HIV プロテアーゼ阻害剤 インジナビル （国内未発売） 等	過度の鎮静や呼吸抑制等が起こる可能性がある。	チトクローム P450 に対する競合的阻害により、本剤の血中濃度が大幅に上昇することが予測されている。

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
中枢神経抑制剤 フェノチアジン誘導体 バルビツール酸誘導体 等 モノアミン酸化酵素阻害剤	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が増強することがある。	相互に中枢神経抑制作用を増強することが考えられている。
アルコール （飲酒）	眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が増強することがある。	相互に中枢神経抑制作用を増強することが考えられている。
リトナビル	本剤の AUC、クリアランス、半減期がそれぞれ 2.5 倍、0.41 倍、2.2 倍になり、中枢神経抑制作用が増強するとの報告がある。	本剤の肝臓での代謝が阻害されることが考えられている。
イトラコナゾール	本剤の AUC、クリアランス、半減期がそれぞれ 2.8 倍、0.41 倍、2.7 倍になり、中枢神経抑制作用が増強するとの報告がある。	イトラコナゾールが本剤の肝薬物代謝酵素であるチトクローム P450 3A4 を阻害することが考えられている。
ポサコナゾール	鎮静の延長や呼吸抑制のおそれがあるため、ポサコナゾールとの併用は、治療上の有益性が危険性を上回る場合を除き避けること。併用する場合には、本剤の用量を調節すること。	ポサコナゾールが本剤の肝薬物代謝酵素であるチトクローム P450 3A4 を阻害することにより、本剤の血中濃度が上昇すると予測される。

フルボキサミンマレイン酸塩	本剤の AUC、クリアランス、最高血中濃度がそれぞれ 2.0 倍、0.51 倍、1.9 倍になり、中枢神経抑制作用が増強するとの報告がある。	本剤の肝臓での代謝が阻害されることが考えられている。
シメチジン	本剤の最高血中濃度、クリアランス、半減期がそれぞれ 1.9 倍、0.58 倍、1.2 倍になるとの報告があるので、本剤を減量するか、又は他の抗潰瘍剤を用いるなど注意すること。	本剤の肝臓での代謝が阻害されることが考えられる。
イミプラミン デシプラミン	左記の薬剤の血中濃度が 1.2~1.3 倍に上昇することが報告されている。	本剤により左記の薬剤の肝臓での代謝が阻害されることが考えられる。
カルバマゼピン	本剤の血中濃度が 0.5 倍以下に低下し、原疾患の悪化が認められた例が報告されている。	本剤の肝臓での代謝が促進されることが考えられる。
ジゴキシン	本剤との併用においてジゴキシンの血中濃度が上昇するとの報告がある。特に高齢者では注意すること。	機序不明

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明）

- (1) 連用により薬物依存を生じることがあるので、観察を十分に行い、用量及び使用期間に注意し慎重に投与すること。また、連用中における投与量の急激な減少ないし投与の中止により、痙攣発作、せん妄、振戦、不眠、不安、幻覚、妄想等の離脱症状があらわれることがあるので、投与を中止する場合には徐々に減量するなど慎重に行うこと。
- (2) 刺激興奮、錯乱等があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- (3) 慢性気管支炎等の呼吸器疾患に用いた場合、呼吸抑制があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- (4) そう痒、蕁麻疹、顔面潮紅・腫脹、息切れ等のアナフィラキシーがあらわれたとの報告があるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (5) AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP の上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、患者の状態を十分に観察し、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

その他の副作用

その他の副作用	
	頻度不明
精神神経系	眠気、めまい・ふらつき、頭痛、不眠、眼症状(霧視、複視)、構音障害、焦躁感、神経過敏、健忘、尿失禁、振戦
肝臓	AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、 γ -GTP 上昇
循環器	血圧低下、動悸
消化器	口渇、悪心、嘔吐、食欲不振、腹痛、腹部不快感、便秘、下痢
過敏症 ^{注2)}	発疹、そう痒、光線過敏性反応
骨格筋	脱力感・けん怠感、筋弛緩等の筋緊張低下症状
その他	発汗

注2) このような場合には投与を中止すること。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

添付文書より抜粋

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

- 1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

重大な副作用(頻度不明)

- (4) そう痒、蕁麻疹、顔面潮紅・腫脹、息切れ等の**アナフィラキシー**があらわれたとの報告があるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

その他の副作用

その他の副作用	
	頻 度 不 明
過敏症 ^{注2)}	発疹、そう痒、光線過敏性反応

注2)このような場合には投与を中止すること。

9. 高齢者への投与

高齢者への投与

高齢者へ投与する場合には、少量から投与を開始するなど慎重に投与すること。[運動失調等

の副作用が発現しやすい。]

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1) 妊婦(3ヵ月以内)又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中に他のベンゾジアゼピン系化合物(ジアゼパム)の投与を受けた患者の中に奇形を有する児等の障害児を出産した例が対照群と比較して有意に多いとの疫学的調査報告があり、また、本剤を動物(ラット、ウサギ)に大量投与したとき、骨格異常、胎児の死亡、出産児の発育遅延の増加が報告されている。]
- 2) 妊娠後期の女性には治療上の有益性が危険性を上まわると判断される場合にのみ投与すること。[ベンゾジアゼピン系化合物で新生児に哺乳困難、嘔吐、活動低下、筋緊張低下、過緊張、嗜眠、傾眠、呼吸抑制・無呼吸、チアノーゼ、易刺激性、神経過敏、振戦、低体温、頻脈等を起こすことが報告されている。なお、これらの症状は、離脱症状あるいは新生児仮死として報告される場合もある。また、ベンゾジアゼピン系化合物で新生児に黄疸の増強を起こすことが報告されている。]
- 3) 分娩前に連用した場合、出産後新生児に離脱症状があらわれることが、ベンゾジアゼピン系化合物で報告されている。
- 4) 授乳婦への投与は避けることが望ましいが、やむを得ず投与する場合は授乳を避けさせること。[ヒト母乳中に移行し、新生児に嗜眠、体重減少等を起こすことが、他のベンゾジアゼピン系化合物(ジアゼパム)で報告されており、また、黄疸を増強する可能性がある。]

11. 小児等への投与

小児等への投与

小児に対する安全性は確立していない。(使用経験が少ない)

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

過量投与

症状: 本剤の過量投与により、傾眠、錯乱、協調運動障害、反射減退及び昏睡等があらわれることがある。

処置: 呼吸、脈拍、血圧の監視を行うとともに、胃洗浄、輸液、気道の確保等の適切な処置を行うこと。また、本剤の過量投与が明白又は疑われた場合の処置としてフルマゼニル(ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤)を投与する場合には、使用前にフルマゼニルの使用上の注意(禁忌、慎重投与、相互作用等)を必ず読むこと。

14. 適用上の注意

適用上の注意

薬剤交付時: PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

15. その他の注意

その他の注意

投与した薬剤が特定されないままにフルマゼニル(ベンゾジアゼピン受容体拮抗剤)を投与された患者で、新たに本剤を投与する場合、本剤の鎮静・抗痙攣作用が変化、遅延するおそれがある。

16. その他

該当しない

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

該当資料なし

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

VIII. 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与の項 1)を参照

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：向精神薬、処方箋医薬品^{注1)}

注1) 注意－医師等の処方箋により使用すること

有効成分：向精神薬、処方箋医薬品

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年(外箱、ラベルに記載)

3. 貯法・保存条件

貯法：室温保存、気密容器(錠 0.8mg のみ)

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取扱いについて

患者向け医薬品ガイド：有

くすりのしおり：有

その他の患者向け資材：有

VIII. 14. 適用上の注意の項を参照

(3) 調剤時の留意点について

該当しない

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

製品名	包装形態	内容量(重量、容量又は個数等)
アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」	PTP 包装	100 錠、1000 錠
	バラ包装	1000 錠
アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」	PTP 包装	100 錠

7. 容器の材質

製品名	包装形態	材質
アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーワ」	PTP 包装	PTP : ポリ塩化ビニル、 アルミ箔
	バラ包装	瓶、蓋(乾燥剤入り) : ポリエチレン
アルプラゾラム錠 0.8mg 「トーワ」	PTP 包装	PTP : ポリ塩化ビニル、 アルミ箔

8. 同一成分・同効薬

同一成分 : コンスタン 0.4mg 錠、コンスタン 0.8mg 錠、ソラナックス 0.4mg 錠、ソラナックス 0.8mg 錠

同効薬 : ジアゼパム、クロチアゼパム、メタゼパム等ベンゾジアゼピン系薬剤

9. 国際誕生年月日

1980 年 3 月 12 日

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製品名	製造販売承認年月日	承認番号	備考
アルプラゾラム錠 0.4mg 「トーワ」	1996 年 3 月 15 日	(08AM)0550	
	2008 年 3 月 13 日	22000AMX00725000	販売名変更による
アルプラゾラム錠 0.8mg 「トーワ」	2010 年 7 月 15 日	22200AMX00631000	

11. 薬価基準収載年月日

製品名	薬価基準収載年月日	備考
アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」	1996 年 7 月 5 日	
	2008 年 6 月 20 日	販売名変更による
アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」	2010 年 11 月 19 日	

12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

再審査結果 : 該当しない

アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」

品質再評価結果公表年月日 : 2003 年 2 月 21 日

品質再評価結果 : 薬事法第 14 条第 2 項各号(承認拒否事由)のいずれにも該当しないとの結果を得た。

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は厚生労働省告示第97号(平成20年3月19日)に基づき、1回30日分投薬を上限とされている。

16. 各種コード

製品名	HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト 電算コード
アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」	112099801	1124023F1010 (統一名) 1124023F1100 (個別)	622707200 (統一名) 620006836 (個別)
アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」	120122201	1124023F2017 (統一名) 1124023F2050 (個別)	622707300 (統一名) 622012201 (個別)

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 東和薬品株式会社 社内資料：加速試験(アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」)
- 2) 東和薬品株式会社 社内資料：加速試験(アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」)
- 3) 東和薬品株式会社 社内資料：長期保存試験(アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」)
- 4) 東和薬品株式会社 社内資料：無包装状態における安定性試験(アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」)
- 5) 東和薬品株式会社 社内資料：無包装状態における安定性試験(アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」)
- 6) 東和薬品株式会社 社内資料：品質再評価；溶出試験(アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」)
- 7) 東和薬品株式会社 社内資料：製品試験；溶出試験(アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」)
- 8) 東和薬品株式会社 社内資料：品質再評価；溶出試験(アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」)
- 9) 東和薬品株式会社 社内資料：生物学的同等性試験；溶出試験(アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」)
- 10) 第十六改正日本薬局方解説書, C-350～C-354, 廣川書店 (2011)
- 11) 東和薬品株式会社 社内資料：生物学的同等性試験；血漿中未変化体濃度(アルプラゾラム錠 0.4mg「トーワ」)
- 12) 東和薬品株式会社 社内資料：生物学的同等性試験；血漿中未変化体濃度(アルプラゾラム錠 0.8mg「トーワ」)

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

ⅩⅢ. 備 考

その他の関連資料

東和薬品株式会社 製品情報ホームページ

<https://med.towayakuhin.co.jp/medical/product/index.php>

製造販売元

東和薬品株式会社

大阪府門真市新橋町2番11号